

彙報

田中美知太郎名誉教授の御逝去

會告

京都大学名誉教授、文学博士、田中美知太郎先生は、昨昭和六十年十二月十八日午後二時、京都大学附属病院において、急性心不全のため逝去された。享年八十三歳。

先生は新潟県の御出身。大正十五年（一九二六年）京都帝國大学文学部選科を修了。昭和三年法政大学講師、昭和五年東京文理科大学講師として講筵を開かれる。昭和二十年五月、戦災で瀕死の大火傷を負われ、のちの緑内障の遠因ともなる。戦後、昭和二十二年七月、京都帝國大学文学部助教に任ぜられ、同二十五年京都大学教授に昇任、昭和四十年三月に停年退官されるまで哲学哲学史第五講座（現第二講座、西洋哲学史古代）を担当し、この間、厳正な文献学的方法と自由な思索とによって、西洋哲学をその淵源に遡って本格的に探究するといふ、揺ぎない学風を築かれるとともに、多くの後進を育成、薫陶された。

多方面にわたる先生の業績のうち西洋哲学関連の主なものとしては、『プラトン』『テアイテトス』訳註（昭和十三年）、『ソフィスト』（同十六年）、『ロゴスとイデア』（同二十二年）、『近代思想と古代哲学』（同二十三年）、『善と必然との間に』（同二十七年）、『ソクラテス』（同三十一年）、『古代哲学史』（同六十年）などがある。緑内障が進み、目が随分不自由な晩年であつて、心のどかに急がず休まず、八

年がかりでまとめあげられた四巻の著作『プラトン』（同五十四―五十九年）は、先生の学問の最も包括的で、かつ徹底した集大成であらう。

多数の編著書、翻訳書のうち代表的なものとしては、講座『哲学大系』（全七巻、昭和三十八年）、『プラトン全集』（全十五巻、別巻一、昭和四十九―五十二年、藤澤令夫と共編）がある。また、古典を価値基準とした先生の卓見、均衡のとれた思考、平明な言葉は、多方面にわたる文明批評的発言において生かされ、高い評価をうけている。先生は、京都哲学會の発展のために非常に尽力され、『哲学研究』には、五篇の論文を八回にわたり寄稿いただいただけではなく、『哲学研究』を守ることをたえず念願しておられた。

更に、日本学術會議會員（昭和三十二―三十七年）、日本哲学會委員（昭和三十二―四十六年）、関西哲学會委員長（昭和三十三―三十七年）、日本西洋古典學會委員長（昭和三十一―四十年）、日本文化會議理事長（昭和四十三年―逝去）、などを歴任、広く學術振興のためにつくられた。これらの業績に対し田中先生は、昭和四十七年に文化功勞者に選ばれ、同四十八年に勲二等瑞宝章受章。また、同年ギリシア國政府よりフィニックス十字勲章を受けた。さらに同五十三年には文化勲章を受章された。また、同五十七年には、京都市名誉市民に選ばれた。御逝去とともに、従三位勲一等瑞宝章の叙位叙勲を受けられた。

先生の御葬儀は昭和六十年十二月二十日、京都東本願寺岡崎別院において行なわれた。法名、美徳院釋淨智。東大谷墓地に埋葬された。

謹んで先生の御冥福をお祈りいたします。

昭和六十一年三月二十日

京都哲学會

二 会員並びに学会に縁りの方の御逝去

左記の会員の方々、また本学会に縁りの方が逝去しておられる。本学会へ御寄せ下さった御厚誼の数々を偲び、謹んで御冥福と御遺族の御平安とをお祈り申し上げる。(括弧内は、御逝去の日・最終御勤務先・御遺族の御住所)

大塚恵一

朝永領子

安部晴之助

大塚恵一氏は昭和二十五年三月、京都大学文学部を御卒業。

『哲学研究』第四五八号に「カントの感情について」を御寄稿いただいた。

朝永領子様(故朝永振一郎博士未亡人)は去る昭和五十八年、故朝永三十郎先生の三十三回忌法要を施主として営まれた。

『哲学研究』五四九号一〇八頁に関係記事。

安部晴之助先生は大正十一年より昭和二十四年にいたるまで、第三高等学校において哲学を講じられた。本学会草創当時から会員であられ、『哲学研究』にも「リッケルトの歴史の觀念に就て」(第一巻第五冊)をはじめ三回にわたり御寄稿いただいた。また、九十八歳の御天寿を全うせられるまで、『哲学研究』を御購読下さるなど、永年の御好意の数々に、衷心から御礼を

申しあげたい。

(右に掲載しましたのは、判明した方々のみです。他に会員の御消息についてお気づきの方は、京都哲学会までお知らせ下さい。)

三 京都哲学会公開講演会記事

昭和六十年度の京都哲学会公開講演会は、十一月三日(日)午後一時半から、京都大学文学部第七講義室において、左記の如く行われた。

一、空

京都大学教授 梶山雄一氏

一、連想反応の連関構造

京都大学助教授 清水御代明氏

講演会は、臼井、長尾、野田、石田(仁)、本吉等の本学諸名誉教授の他、稲垣不二磨、大喜多秀、針木憲、三浦義和等、遠方からの会員の御出席も少からず、盛会であった。また、終了後、楽友会館において、梶山、清水両氏を囲んで、約四十名の会員が晩餐を共にしつつ、討論、歓談のひとつときをすごした。

四 昭和六十年度京都哲学会収支決算について

前年度繰越金 二、三二三、三六四円
 本年度収入 二、二八二、一六二円

哲学研究 第五百五十三号

本年度支出 一、六〇〇、九三二円
 残額総計 三、〇〇四、五九四円

(内、積立金 四一〇、五八三円)

なお、右については、本学会の高田三郎、西川富雄両氏(本学会会計監査)から、昭和六十一年四月二十二日および五月六日付で、監査と御承認を頂いております。

五 京都哲学会委員の移動について

京都哲学会現任委員のうち、昭和六十一年四月一日をもって、徳永宗雄氏(印度哲学史講座助教授着任のため)が委員に就任された。

六 京都大学文学部哲学科講義題目

以下に掲載するのは、昭和五十二年年度の京都大学文学部哲学科講義題目(六)、および昭和五十三年三月同学科卒業論文題目(七)、修士課程修士論文題目(八)、そして博士課程単位修得者研究論文要旨題目(九)である。いずれも古い年度のものであるが、彙報欄休載期間中に属するため、同期間中の他の年度の題目と同様、参考資料としてここに掲載する。

哲学

講義教授	辻村 公一	※哲学概論
研究教授	辻村 公一	時間概念の歴史
助教授	木曾 好能	様相論理学
教養部教授	上田 泰治	ホワイトヘッドの思想展開〔共〕
教養部助教授	竹市 明弘	現代における存在論の可能性について
講師	茅野 良男	哲学的人間学(倫理学と共通)
講師	坂東 性純	日本思想史(倫理学・仏教と共通)
演習I 教授	辻村 公一	Heidegger: Sein und Zeit
助教授	木曾 好能	Locke: An Essay Concerning Human Understanding
演習 助教授	石井 誠士	Kant: Kritik der reinen Vernunft
講師	井上 庄七	Descartes: Les principes de la philosophie
演習 講師	水野 和久	Merleau-Ponty: Le visible et l'invisible
講読 講師	田中 進	Berkeley: A Treatise concerning

——昭和五十二年度——

※ 二回生が履習できる専門科目

〔共〕 大学院と共通

〔院〕 大学院のみ

講演	助手	杉山聖一郎	Ernst Cassirer: Determinismus und Indeterminismus	演習 I	教授	山田 晶	Augustinus: Confessiones
演習 II	教授	辻村 公一	哲学の諸問題	演習 II	教授	山田 晶	Thomas Aquinas: Summa Theol. I
演習 III	助教	木曾 好能	Wittgenstein: Logisch-philosophische Abhandlung	演習	助教	山下 正男	Petrus Hispanus: Summulae Logicales (前編)
	助教	木曾 好能			助教	山下 正男	Guillelmus Ockham: Tractatus Logicae Minor (後編)
							Augustinus: De Doctrina Christiana (基督教哲学の基礎)
講義	教授	藤澤 令夫	※西洋古代哲学史概説		講師	小池 三郎	Siger de Brabant, De necessitate et contingencia causarum
"	教授	山田 晶	※西洋中世哲学史概説	"	講師	日下 昭夫	Thomas Aquinas: In Aristotelis Peri Hermeneias Expositio
"	教授	酒井 修	※西洋近世哲学史概説	"	講師	山本 耕平	Hegel: Der Geist des Christentums und sein Schicksal
研究	教授	藤澤 令夫	範型性(イデア・ムラダイグマ)と現実性(エネルゲイア)	演習 I	教授	酒井 修	Hegel: Phänomenologie des Geistes
"	教授	山田 晶	創造の問題				Kant: Kritik der praktischen Vernunft
"	講師	柏木 英彦	西洋十二世紀の諸思想(基督教学へ共通)				
"	講師	大江 晃	論理的諸問題の展開				
演習 I	教授	藤澤 令夫	Platon: Politicus 284C~				
演習 II	教授	藤澤 令夫	Aristoteles: De Generatione et Corruptione A7~				
演習 III	講師	種山 恭子	Plotinos: Enneades				

演習 講師 三輪 正 Bergson: Matière et Mémoire [共]

" 講師 矢野 道雄 *Bṛhasamhitā* の研究 (梵語学、梵文学と共通) [共]

講読 講師 山野 耕治 W. Jaeger: *Paideia, die Formung des griechischen Menschen*

演習 教授 服部 正明 インド哲学史の諸問題 [共]

Platon: *Apologia Socratis*

" 助教 小林 信彦 サンスクリット文選 I (仏教学、梵語学梵文学と共通) [共]

研究 助手 今林万里子 歴史的世界 [院]

" 教授 大地原 豊 サンスクリット文選 II (梵語学梵文学と共通) [共]

演習 III 教授 山田 晶 Thomas Aquinas: *Summa Theol. I.* [院]

" 助手 井符 弥介 *Straus* 祭式文献 (仏教学、梵語学梵文学と共通) [共]

演習 II 教授 酒井 修 Hegel: *Phänomenologie des Geistes* [院]

語学 助教 小林 信彦 ※サンスクリット文法 (仏教学、西南アジア史学、梵語学梵文学と共通)

印度哲学史

※インド思想史

中国哲学史

講義 教授 服部 正明 古典インドにおける意味論 [共]

講義 教授 湯浅 幸孫 ※中国思想史 [共]

" 助教 教授 服部 正明 古典インドにおける意味論 [共]

研究 講師 本田 济 唐末の儒学 [共]

" 助教 教授 小林 信彦 *Bhāṣya, Kṛtyalankāra* の研究 (仏教学、梵語学梵文学と共通) [共]

" 助教 教授 吉川 忠夫 南北朝の文化 (東洋史学と共通) [共]

" 講師 前田 専学 Vedānta 哲学の研究 [共]

演習 教授 湯浅 幸孫 史通 [共]

" 講師 立川 武蔵 *Kiraṇāvālī* 研究 [共]

" 講師 日原 利国 周礼注疏 [共]

" 講師 渡瀬 信之 古典ベンダー法における刑罰思想 (梵語学梵文学と共通) [共]

" 人文研究 尾崎雄二郎 説文解字注 (中国語学中国文学と共通) [共]

講読 助手 西脇 常記 後漢書儒林伝 [共]

講 読 講 師 黄 濟清 法家著作選読第二輯
研究 教授 湯浅 幸孫 王廷相の研究 [院]

心理 学

講 義 教 授 柿崎 祐一 ※心理学概論

教 授 本吉 良治 ※学習心理学

教育 学部 河合隼雄 臨床心理学概論(教育学部と共通、ただし教職科目ではない)

教育 学部 坂野 登 教育心理学概論(教育学部と共通、ただし、教職科目ではない)

研究 助教授 平野 俊二 記憶痕跡の二、三の問題

教育 学部 百名盛之 視聴覚教育特論(教育学部と共通、ただし、教職科目ではない)

い [共]

研究 講 師 清水御代明 情報処理様式の発達 [共]

講 師 今村 護郎 感情の問題 [共]

講 師 小谷津孝明 認知と情報処理 [共]

講 師 田村 博 制御における行動形成 [共]

講 師 難波精一郎 音響心理学の諸問題 [共]

講 師 天野 清 言語心理学(教育学部と共通) [共]

講 師 坂本 昂 教育工学の諸問題(教育学部と共通) [共]

講 師 三隅二不二 教育における社会心理学(教育学部と共通) [共]

演 習 助教授 平野 俊二 心理学演習(1)

教 授 本吉 良治 心理学演習(2)

助 教 授 平野 俊二 心理学特殊実験

教 授 本吉 良治 ※心理学基礎実験

教 授 本吉 良治 ※心理学基礎実験

助 教 授 平野 俊二

講 師 一谷 彊 ※統計法基礎実習

講 師 島 久洋 社会的相互作用の基礎

講 師 梅村智恵子 G. Brounau du Bouchron:

講 師 梅村智恵子 L'apprentissage verbal chez Penfant. [共]

演 習 教 授 柿崎 祐一 現代心理学の諸問題 [院]

教 授 本吉 良治 現代心理学の諸問題 [院]

助 教 授 平野 俊二 発達心理学演習 [院]

教 養 部 中島 誠 発達心理学演習 [院]

教 養 部 木下 富雄 社会心理学の方法論をめぐる二、

三の問題

演習 教育学部 梅本堯夫 教育心理学(課題演習、教育学
助教授 坂野 登 部と共通) [院]

倫理学

講義 助教授 西谷 裕作 ※倫理学概論
研究 助教授 中 久郎 デュルケームの社会理論(社会
学と共通) [共]

" 講師 中埜 肇 ドイツ観念論における自由概念
の変遷 [共]

" 講師 茅野 良男 哲学的人間学(哲学と共通) [共]

" 講師 坂東 性純 日本思想史(哲学、仏教学と共
通) [共]

" 講師 有福 孝岳 自我の問題 [共]

演習 I 教授 森口美都男 Kant: Kritik der Urteiskraft,
§26 から [共]

演習 II 教授 森口美都男 倫理学の諸問題

演習 III 助教授 西谷 裕作 J. Rawls: A Theory of Justice
人文研 内井 惣七 [共]

" 講師 深谷 昭三 M. Scheler: Wesen und For-
men der Sympathie, Vom [共]

fremden Ich [共]

" 講師 三嶋 唯義 Bergson: Les deux Sources
de la Morale et de la Religion [共]

講読 助教授 西谷 裕作 G. Marcel: Homo Viator [共]

美学美術史学

講義 教授 吉岡健二郎 ※美学概論

" 助教授 清水 善三 ※日本美術史概説

研究 教授 吉岡健二郎 ヴェーリン学派の芸術哲学 [共]

" 助教授 清水 善三 鎌倉彫刻史研究 [共]

研究 助教授 乾 由明 十九世紀フランス絵画史 [共]

" 助養部 新田 博衛 作品の受容 [共]

" 講師 武田 恒夫 中世屏風絵の特質とその展開 [共]

" 講師 上平 貢 イタリア・ルネサンス彫刻の研
究 [共]

" 講師 山岡 泰造 鎌倉・室町時代の水墨画と宋元
の絵画 [共]

" 講師 秋山 光和 前期—絵巻物研究 後期—日
本古代絵画の諸問題(国語学
文学と共通) [共]

演習Ⅰ 教授 吉岡健二郎 美学美術史学の諸問題

助教授 清水 善三

演習Ⅱ 助教授 清水 善三 美術史学の実地指導

講 義 教授 乾 由明 M. Brion: L'oeil, l'esprit et la main du peintre.

F. Ullitz: Ästhetik.

演習Ⅰ 助手 米沢 有恒 E. Ullitz: Ästhetik.

教授 吉岡健二郎 美学美術史学の諸問題

社会学

社会学

講 義 助教授 中 久郎 ※社会学概論

研究 助教授 中 久郎 デュルケームの社会学理論 (倫理学と共通)

研究 東南ア研 助教授 坪内良博 家族社会学の諸問題

講 義 講師 阪井 敏郎 社会病理の諸問題

講 義 講師 船津 衛 自我論の現代的展開

講 義 講師 益田 庄三 村落社会学

講 義 講師 村井 研治 インテリゲンツィアの社会的性格

演習 講師 高島 昌二 政治社会学研究序説

助教授 中 久郎 社会学の諸問題

講 義 助手 橋本 満 社会学方法論

英書講読 (K. Dixon, Sociolo-

gical Theory)

講 義 講師 児玉 昇 独書講読 (Eugen Lemberg, Soziologie des Nationalismus)

演習 教授 池田 義祐 現代社会学の諸問題

助教授 中 久郎 理論社会学の問題

助教授 高橋 三郎 社会関係論への一つのアプローチ

社会学 (比較社会学)

社会学 (比較社会学)

研究 講師 新 睦人 社会学における実証的研究

講 義 講師 口羽 益生 村落の国際比較研究

講 義 講師 フセ、トモヤサ Comparative Sociology

演習 教授 池田 義祐 Rural-Urban Sociology

東南ア研 教授 水野浩一 社会組織の比較

宗 教 学

講 義 助教授 長谷 正当 ※宗教学概論

研究 教授 上田 閑照 ドイツ神秘主義研究

助教授 山本 誠作 ホワイトヘッドの研究

講 義 講師 石田 慶和 『教行信証』の哲学的考察

演習教授	上田 閑照	現代の宗教哲学	〔共〕	研究講師	坂東 性純	日本思想史(哲学、倫理学と共通)	〔共〕
" 助教	長谷 正尚	P. Ricoeur: Philosophie de la Volonté	〔共〕	" 講師	桂 紹隆	Dharmakīrti の推理論の研究	〔共〕
" 講師	大塚 颯	Schelling: Über das Wesen der menschlichen Freiheit	〔共〕	演習教授	梶山 雄一	Kanalaśīta, <i>Tattvasamgraha-pañjikā</i> , Chap. 26.	〔共〕
" 講師	稲葉 稔	Hegel: Phänomenologie des Geistes	〔共〕	" 助教	小林 信彦	サンスクリット文選Ⅰ(印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	〔共〕
講読講師	田中 英三	W. James: The Varieties of Religious Experience	〔共〕	" 教授	大地原 豊	ブラークリット文選(梵語学梵文学と共通)	〔共〕
" 講師	藺田 坦	Schiernmacher: Der christliche Glaube	〔共〕	" 人文研 教授	柳田 聖山	胡適編『神会和尚遺集』	〔共〕
" 講師	西村浩太郎	Pascal: Pensées	〔共〕	" 教養部 助教	荒牧 典俊	Suttanipata	〔共〕
仏教学				" 助手	井狩 弥介	Graha 祭式文献(印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	〔共〕
講義教授	梶山 雄一	※インド仏教思想史		" 人文研 助手	御牧 克己	梵語仏典選集	〔共〕
研究教授	梶山 雄一	説一切有部の存在論の研究	〔共〕	語学 助教	小林 信彦	※サンスクリット文法(印度哲学史、西南アジア史学、梵語学梵文学と共通)	〔共〕
" 助教	小林 信彦	Bhāmaha, <i>Kavyālakāra</i> (印度哲学史、梵語学梵文学と共通)	〔共〕	" 講師	頼富 本宏	チベット語	〔共〕
" 講師	戸田 宏文	<i>Sadharmapundarīka</i> 諸本の対照研究(梵語学梵文学と共通)	〔共〕	講義 助教	水垣 渉	※原始キリスト教	

研究 助教 水垣 涉 初期キリスト教における「探求」の問題 [共]

講師 佐藤 吉昭 キリスト教教父の自然観—テル

トリアヌスからアンブロジウスへ— [共]

講師 森田雄三郎 キリスト論の動向と変化 [共]

講師 柏木 英彦 西洋十二世紀の諸思想(西洋哲学史と共通) [共]

演習 助教 水垣 涉 Origens: De principis [共]

講師 野本 真也 古典ヘブライ語文法および創世記原典の講読・釈義(西南アジア史学と共通) [共]

演習 講師 遠藤 彰 マルコ福音書原典講読と釈義、八—十六章 [共]

講師 小池 三郎 Augustinus: De Doctrina Christiana (西洋哲学史と共通)

講師 今井 晋 Paul Althaus: Die christliche Wahrheit [共]

助教授 水垣 涉 院生の研究発表を中心に討論する [院]

川添 信介 デカルトにおける本質と存在

須藤 訓任 同一物否定とベースクティヴ——ニーチェの認識論の一断面——

野村 直正 反省と反省されないもの——メルロ・ポンティにおける生きられる世界についての一考察——

星 野 倫 デカルトにおける「我」の問題——超越論的主観性と個性性——

吉田 一秀 カルナップの言語理論——ライブニッツの哲学——

高瀬 正宏 ——モナドとは何か——

竹田 忠宏 フッサールの「危機」論文における二、三の問題点

山本 稔 ベルクソン哲学における『物質と記憶』について

柳川 博 昭 ライブニッツの個体論——宗教哲学としてのモナドロジー——

山瀬 一美 デカルトの『方法叙説』について

福島 丞 人間に於る身体的関係

菅沼 隆夫 デカルト哲学における道徳の問題——認識と行為との隙間——

七 京都大学文学部哲学科卒業論文題目

——昭和五十三年三月——

哲 学

彙 報

西洋哲学史

井上英司 エレノ派論理の破壊性

——ゼノンの逆理を核として——

加藤雅人 トマス・アクィナスにおける神の超越と内在
嶋津雅彦 Platon, Phaidon にあつての *LETTEROS*
NAOTE にあつて

——イデア原因論とヒュポテシスの方法の導入に關連して——

福山敦子 「イデアを知る主体」としての魂の不死とは

——Plato, *Phaedo* に関する考察より——

朴 一 功 Platon, *Phaidon* に関する考察

——フシキエーの不死論証を巡つて——

鬼原 悟 ロックにおける認識論の問題点について

印度哲学史

谷内清岳 yogabhāṣya にあつての samādhi と samāpti
にあつて

心理学

銅原寿夫 Attention and Search Task の Mapping の

違いによる考察

亀井 稔 集団規範がリーダーに及ぼす影響

亀岡 眞壽美 社会的支持と異議とが同調量に及ぼす効果

高橋 美和子 囚人のディレンマゲームにおける協力的行動
に対する反応

堀井陽子 概念達成 concept attainment における選択
事態 selection paradigm と受容事態 recep-

tion paradigm の比較

森 勉 Memory Scanning にあけるカテゴリー化
の効果

山口正弘 視交叉切断ラットにおけるパターン弁別の単
眼視による獲得および半球間転移

山下博志 回避学習事態におけるラットの時間弁別行動
幼児の教概念の発達

後藤 正人 ——基数的対応と序数的対応を中心にし
て——

森川 泉 熟慮型、衝動型児童における選択的注意の発
達について

長瀬浩造 社会的判断における態度強度とステートメン
ト操作の關係についての考察

大和博之 「色」の visual な次元と verbal な次元での
評価の違い

伊藤将司 見当識に及ぼす情緒の影響

宮原清水 Cyclofusional Response に及ぼす諸要因に
あつて

上村 彰 認知的均衡理論において P.O.X 事態に働く
諸要因の考察

篠永洋一 内発的動機づけに対する言語報酬の効果

美学美術史学

赤川 泉 ワトリーの芸術とロココ

岡田温司 クットロチェント「三王礼拝」図

——方法論的探求のために——

齊藤栄一 ラズモフスキー研究

中 敬 夫 シンボルとしての絵画

松本 透 マルセル・デュシャンのレディ・メイド

ready-made に関する一考察

川上隆史 舞踊とコミュニケーション

吉国小枝 Monet のピクチャー

内藤憲吾 ベルグソン『笑』について

林 愛子 デュフレンヌ美学におけるア・プリオリの概

念

社会学

神内久恵 カリスマから制度へ

——世界教世教の場合——

井手裕彦 「続シヴヴァイツァーの声」日本と西欧にお

けるエリートの基盤・文化の相違の考察

江崎雅彦 映像メディアの及ぼす社会的影響

小谷桂恵子 少年非行に占める女子非行の割合およびその

特徴

小西直哉 リースマンにおける社会的性格論

濱口和子 現代社会における青年期の位置づけへのこ

ろみ

前田裕資 狂気と日常の社会学

松山康夫 日本の家族の比較社会的考察

大木良二 現代日本の構造機能主義について

北内陽子 都心過疎化地域におけるコミュニティと生活

佐伯和之 カール・マンハイムの知識社会学の若干の考

察

大塚 茂 マックス・ウェーバーの社会科学方法論に関

する一考察

竹下清次 日本占領政策の原像を求めて

朝倉喜美枝 F. M. Müller に於る宗教と言語の起源につ

いて

中島秀憲 ヘーゲルの宗教論

——『精神現象学』芸術宗教の章をめぐる

て——

佐藤正樹 シュライエルマッヘルの『宗教論』に

おける宗教観について

伊藤 聰 親鸞の研究

——『教行信証』をめぐる——

八 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

修士課程修了論文題目

——昭和五十三年三月——

哲学

高田 珠 樹 真性の諸相とその統一

富田 恭 彦 ロックの言語理論

竹田 浩 一 ホワイトヘッドの形而上学について

子野 日俊 夫 カントにおける認識の成立と悟性

倫理学

松島 哲 久 象徴と思惟

——Paul Ricoeur における意志の現象学と
言語の解釈について——

中国哲学史

中西 啓 子 劉宋元嘉時代の儒仏論争について

印度哲学史

赤松 明 彦 Dharmakīrti の Apoha 論

——「ことばと実在について」——

黒田 泰 司 Saikanātha の nyogā 論

西洋哲学史

福 谷 茂 カントにおける「超越」の問題について

江 花 弘 章 ヘーゲルの道徳論

山 田 道 夫 プラトンのイデアに関する一考察

——「イデアの交わり」を中心として——

仲 子 潔 哲学的問いと言語

宗 教 学

野 沢 正次郎 スピノザの認識論

——神の認識を中心にして——

仏 教 学

榎 本 文 雄 *istrava* について

基 督 教 学

伊 藤 利 行 *ΠΑΡΡΗΣΙΑ*

——第二コリント三章十二節の研究——

心 理 学

岩 崎 隆 彦 概念の発達

——絵画的材料による等価的關係づけを中心として——

鳥 居 正 雄 *Concurrent* 刺激を用いた弁別学習課題の体

松村暢隆 制化におよぼす過剰訓練の効果
 類概念と類否定の発達
 宮崎 渉 態度に及ぼす情報の影響

社会学

伊藤公雄 「日常」と「世界」の《選択親和性 elective affinity》をめぐって
 ——社会変革のへ担い手《を》を中心に据えて——

指方秀雄 西欧と日本における「合理的思惟」の展開過程に関する一試論

沢田善太郎 産業民主制と労働者統制

細辻恵子 社会学における社会化的問題

安野早己 人類学の対象としての社会的事実

——デュルケムからレヴィ・ストロースへ——

美学美術史学

加藤哲弘 ハイデガーの芸術哲学

岸文和 若き Georg Lukacs の文学理論について

九 京都大学大学院文学研究科（哲学系）

博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和五十三年三月——

哲学

伊藤邦武 『論理哲学論考』における「思考」の規定
 銚之原善章 現象学的構造分析

倫理学

池上哲司 M・シェーラーの人格論の問題点

大町 公 信仰への道
 ——パスカルの場合——

柴田 秀 自己と自由

西洋哲学史

中岡成文 ヘーゲルにおける絶対性のアスペクトとしての深処

山口義久 プラトンにおける自然と人間

宗教学

藤田正勝 自己意識の構造
 ——ヘーゲル『精神現象学』研究——

松丸壽雄 ハイデガー『有と時』における無について
 基督教学

村山周治 バルト「ローマ人への手紙」に於る神認識

心理学

佐伯康子 知覚に対する経験効果について

松川 順子 知覚的認知過程に関する研究

社会学

溝部 明男 四機能パラダイムとパターン変数

——四つの次元の相互独立性と網羅性について——

美学美術史学

上倉 庸敬 美の諸芸術の分類

——エチエンヌ・シルソンの芸術哲学——

中島 博 鎌倉時代の尊像画における説話的要素について

次 号 論 文 豫 告

空と慈悲(仮題).....	梶山 雄一
法律学と哲学.....	田中 成明
劇としての『精神現象学』.....	門脇 健
——一八〇六年のシェークスピア——	
スピノザの倫理思想における.....	真田 郷史
目的因の否定	
——人間本性の型(exemplar humanae naturae)をめぐる——	
〔回想〕『哲学研究』の思い出.....	小田 武
哲学研究第四十七巻総目録	